

声の仏念

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2015(平成27年)11月1日発行 vol.237



千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて

如燈風中



岐阜教区教務所長
御同朋の社会をめざす運動
岐阜教区委員会委員長

河村 信昭

去る九月十八日第三十五回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が、戦後七十年という節目の年に第二十五代専如ご門主御親修のもと、お勤まりになりました。各国駐日大使をはじめ全国から二千五百人が参拝され、岐阜教区からも教区会議長をはじめ仏教婦人会を中心に団参加が生まれ、私を含め七人のご法中が出勤され、国籍や思想・信条を超えてすべての戦争犠牲者を追悼し、非戦・兵和の誓いを新たにしました。また、教区内でも宗派の呼びかけに応じて平和の鐘が、法要と同時に撞きならされました。ご門主は、ご法要の「表白」で自己中心の考えから幾多の戦争を繰り返して、多くの命が失われたことへの痛みと悲しみ、そこから出発した戦後七十年の歩みに学ぶことの大切さを述べられた。

石上総長は、「平和宣言」で国家や民族が、互いに不信を抱き、武力を背景にした緊張の上に保たれる平和は、はたして真の平和のすがたといえるのかと問われ、真の平和は誰かを犠牲にして成り立つものでないと断じ、「兵戈無用」という武器なき平和の実現を願われました。

それぞれの思いを胸に焼香される参拝者の姿に、私の父をおもいだしていました。父は、赤紙が来る前に志願して戦争に行き、戦後四年間シベリアに抑留されていました。そんな父を祖母は、仏壇に膳を供えながら息子の帰還を念じていました。父は、シベリアの生活を決して語ることはありませんでしたが、同じ抑留されていた方が危篤の電報があったとき、こいつだけは行かねばならない、彼がいなければ帰ってこれなかったと400*500*の道を血相変えて飛んで行った姿が忘れられません。待ちわびた家族も祖父母と同じ思いだったろうし、無事帰還できた方々も父と同じ思いだったと思います。わが国では、私を含め戦争を知らない人口が八割を超える中、お念仏をいただく同朋が、また世界中の人々が、将来を担ってゆく子供たちに非戦・平和の願いを伝えてゆくことが私たちに課せられた責務とおもふことです。

ナーモ

平成二十八年五月二十八日(土)・二十九日(日)

専如ご門主御親修 岐阜教区・岐阜別院
親鸞聖人七五〇回大遠忌法要
お参りください



専如ご門主をお迎えし、来年平成二十八年五月二十八日(土)と二十九日(日)の両日に、「岐阜教区・岐阜別院親鸞聖人七五〇回大遠忌法要並びに岐阜別院本堂修復・香光殿新築落成慶讃法要」をお勤めいたします。

両日とも、午前にはご門主の御手による帰敬式(おかみそり)がおこなわれ、午後には岐阜市民会館から別院まで庭儀Ⅱおねり、稚児行列を行い、引き続きいて、法要と記念布教が営まれます。

法要当日は別院本堂に仮設の張り出しを造りますが、収容人数は八〇〇席と限られますので、各組に席の割り当てをし、団体参拝席といたします。その他の方に つきましては、モニターで法要の様子を

ご覧いただけるサテライト会場を香光殿に設けますので、そちらにて参拝いただけます。また、当日の一般参拝者は、境内にテントを張り、自由参拝席を設けます。

今回の法要では小学生や幼稚園・保育園児などの子どもたちに「別院に来て欲しい、ご縁を結んでいただきたい」と願い、別院境内で記念行事として、グルメ屋台広場、イベントコーナー、バルーンショーなどの特設ブースを開きます。

また、二十九日(日)午後三時からは、岐阜市民会館におきまして、中川ひろたかファミリーコンサートを計画しています。

皆様、是非とも参拝ください。



南門



補強した本堂内部

岐阜別院の行事

	午前	午後	
5月28日(土)	帰敬式 (おかみそり) (200名)	庭儀=おねり 稚児行列	親鸞聖人750回 大遠忌法要・記念布教
			本堂団体参拝 長良組・岐稲組・中川北組・ 東陽組・黒野組・西濃南組・ 飛騨組
			香光殿サテライト会場 (200席) 境内自由参拝席 (400席)
5月29日(日)	帰敬式 (おかみそり) (200名)	庭儀=おねり 稚児行列	親鸞聖人750回 大遠忌法要・記念布教
			本堂団体参拝 長良組・岐稲組・中川北組・ 東陽組・黒野組・西濃南組・ 飛騨組
			香光殿サテライト会場 (200席) 境内自由参拝席 (400席)

別院境内の記念行事

5月28日(土) 終日 29日(日) 終日	グルメ屋台広場 イベントコーナー バルーンショー
--------------------------	--------------------------------

岐阜市民会館の記念行事

5月29日(日) 午後3時～	中川ひろたか ファミリーコンサート
-------------------	----------------------



帰敬式(おかみそり)

五月二十八日・二十九日の両日、専如ご門主の御手による帰敬式(おかみそり)がおこなわれます。この度の法要では専如ご門主がお越しになられますので、特別に岐阜別院本堂でおこなわれる帰敬式です。申込みにつきましては、三月頃各寺院にお知らせいたしますので、お問い合わせください。

お稚児さん

五月二十八日・二十九日の両日、庭儀「おねり、稚児行列」がおこなわれます。申し込みにつきましては、後日各寺院へご連絡いたします。



工事の報告

本堂は、屋根の葺き替え工事をほぼ終了し、耐震金具の取り付けや耐震壁の設置などの耐震工事を進めています。内陣の修復は、耐震工事が終了しだい始めます。お仏具は京都の小堀仏具店でお洗濯・漆塗り・金箔押しを行っています。

境内は、南門・手洗い場の移動、本堂正面参道の整備、岐阜幼稚園グラウンドの配置替えなどを進めています。全ての工事が三月末までには終了予定です。引き続き永代経(院号)懇志をご進納いただきますようお願いいたします。



耐震補強工事の中の本堂屋根裏



キッズサンガ

事例報告

林雙寺住職
水上 誠 孝

私が現在キッズサンガ活動をさせていただいているのは、23年前、少年連盟のお手伝いに行つたのがきっかけだったと思えます。委員長を2期勤めて最後の年に御本山で「全寺院サマースクール計画」が計画され、全国で5教区、教区内では5か寺の寺院にてサマースクールが試行されました。岐阜教区では5か寺のお寺で無事にサマースクールが開催され、今でも継続されておられるお寺もあります。「お寺を子どもの居場所へ」という目的のもと「キッズサンガ」へと活動が変化して現在に到つてい



ます。当時、試行寺院にお願いに伺うのをお願いしている本人がサマースクールを開催していかないのはおかしいと、林雙寺でも慌ててポスターと募集要項を作成し、第1回林雙寺サマースクールを開校しました。参加者は、門徒の子6名、親戚4名、友人の子3名、我が子2名の計15名でのスタートでした。夏休みの始まる終業式の日夕方16時に林雙寺本堂に集合し開会式の後、クラフト、夕食はカレーをいただきお風呂に行きます。かき氷を食べて映画を

観て就寝です。就寝と言っても積極的に寝なさいとは言いません。阿弥陀様のものでゆっくり過ごせば良いと考えるからです。朝は6時迄寝ていて欲しいのですが、朝日が眩しくて5時には起きてしまいます。朝食はお決まりのスイートパンとおかずをセルフサービスにていただきます。お勤めをして解散です。お決まりの日程が長続きするコツだと本当に思います。みんな笑顔ですから。

今年12回目を開催した林雙寺キッズサンガサマースクールですが、今まで無事に開催出来たのは、少年連盟の本山参拝やサ





マースクール、指導者研修会で教わった事が役に立ったのだと考えます。

今回は、6名の定員を大幅に超えてキャンセル待ちも出て、最終的には参加をお断りする方もありました。

結果今年の参加者は68名でした。ここ10年で参加したお友だちが友達を誘い合い参加者は増加していますが、本堂の畳は36畳しかなく大きめの布団も24枚しか敷くことが出来ないで本堂に申し訳ないのですが、何とか皆、仲良く寝てくれています。

今年のもう一つのキッズサンガとして、高校のバスケットボール部の生徒さんが8名泊まってくださいました。何と7名の生徒さんのお宅にはお仏壇があり阿弥陀様が御安置されてありました。有り難いご縁でした。

最初はお願いで参加して貰っていたサマースクール。サ

マースクールだけではありません。少年連盟の春の本山参拝バスツアーもご門徒のお宅を1軒1軒回って参加を募りました。なかなかご理解が頂けず、参加者は思うように増えませんでした。その頃、少年連盟理事長でおられた杉山雲来さんより、第5回少年連盟指導者海外研修(北米)のお誘いを受け参加しました。オレンジ郡仏教会の日曜

礼拝とダルマスクール分科教室の活動には驚きました。大講堂でお勤めをして御法話を聴聞されています。講堂には入れなかった方は別の場所でプロジェクトに映し出された映像にてお聴聞。日曜礼拝の終了後、幼児のクラス、小学生、高校生、大学生、大人のクラスに分かれ、それぞれの年代別に浄土真宗のご法義のお話を見たり聞いたり話し合ったりされていました。300名のメンバー



が毎週集まり、仏法を聞く場所がある。幼い子から大学生。皆が集える場としてのお寺があるということとは素晴らしいことだと思います。

どうしたら林雙寺もオレンジ郡仏教会のような皆が集えるお寺になるのか考えました。まずは、日曜学校の開校です。毎月第1日曜日だけでしたが、朝8時から「らいはいの歌」のお勤めとお菓子配りをしました。

すると、徐々に参加者が増え、30人を超えた時に



総代さんにお手伝いをお願いしたところ、本堂が参加者と保護者の方で一杯な状況に驚かれ、捻りハチマキでかき氷器を回しにくくさるまでになりました。このような活動の積み重ねが林雙寺キッズサンガの原点です。

最初は勧められてもまったく動かず、言い訳ばかりしていた私でしたが、行動してみると楽しく、また面白いものです。今後も継続してキッズサンガの活動を続けていこうと考えています。

前生 現生 後生

今年中学校1年生になる長男が、小学校に入学した頃のことです。5月に保護者参観がありました。授業を受ける子どもの姿を不安と期待でみていました。授業は、『アサガオを植えましょう』というものでした。配られた植木鉢は、私が子どもの頃の、あの陶器のものとは違う、青いプラスチックでできていました。時代を感じながらも、長男と一緒に準備をしました。「アサガオ用」と書かれた袋に入った土を植木鉢に入れます。その土の4・5か所に指で穴をあけて、先生からアサガオの種を受けとって、それぞれの穴に2・3粒ずつ入れ、土をかぶせて、授業は終わりました。子どもたちは、次の日から毎朝、アサガオに水をやっていから授業をうけたそうです。

7月になり、初めての夏休みを迎えます。夏休みを迎えるにあたってのお手紙を学校からもらって来ました。宿題のことやラジオ体操など、夏休みの注意が書かれてあり、最後にアサガオのことが書かれていました。「みなさんが毎日お世話をしたアサガオは、夏休みの間、家庭で観察をして日記をつけましょう」とあって、その後に「保護者の方へ、学校まで遠いおともだちは、保護者の方がアサガオを取りに来てください」とありました。私の家は歩いて25分くらいかかるので、私が一緒に取りに行きました。帰り道、長男に声をかけました。「いいかい、夏休みの間、君が毎日アサガオのお世話をするんだよ」。長男は「うん大丈夫、ボクちゃんとやるよ」。長男は毎朝、起きるとすぐにアサガオに水をやりました。やがてつばみがつく頃になると、大喜びで「早く咲け、早く咲け」と声をかけながら水をやります。数日後、花が咲きました。最初の日は2、3輪、次の日は5輪、長男はその花を嬉しそうにながめて、絵日記にも色鉛筆でアサガオを描きました。でも、アサガオは咲いてから散るまでがあつという事です。最後の花が咲き終わると、長男はもうアサガオに見向きもしません。私たちもアサガオのことは忘れて、夏休みの後半は、隅の方にほったらかされてしまいました。

9月、2学期の始業式にまた学校からお手紙をもらって来ました。2学期の注意がいくつか書かれ、最後にアサガオのこのことについて、「みなさんが夏休みの間お世話をしたアサガオも、そろそろ…」とありました。そろそろの…の後は、私の感想では「枯れた頃だと思えます」という言葉がつづきます。でもお手紙には、「そろそろ、種が固くなったころだと思えます」とあり、続けて「この種は来年の一年生の大切な種ですから、学校に持ってきてください」とありました。「枯れた頃」も、「種が固くなった頃」も、どちらも間違いではないと思えます。初めて小学校に入学した子どもと、私の見たアサガオは、春に種を植え、芽を出した頃がアサガオの「誕生」で、おそらく一番華やかなのは、何輪も花をつけた頃、そしてアサガオのいのちの終りが「枯れた頃」です。しかし、毎年アサガオを植える一年生と過ごす先生にとって、昨年の一年生が育て、実を結んだ種を今年の一年生がもらい、来年の一年生に受け継がれます。親鸞聖人は、教行信証の中で、「蟬蛸春秋を識らず、伊虫あに朱陽の節を知らんや」と述べられます。七高僧の第一人、曇鸞大師の『往生論註』からのご引用です。蟬蛸とは、夏蟬のことです。「夏に生まれ夏に死ぬ蟬は春と秋を知らない、だからこの虫はどうして今が暑い夏だと知っているのか」という意味です。これは決して蟬を

愚かだと言っているわけではありません。私の「いのち」の問題と見つめ「わたしのいのちは、どこから来てどこへ行くのか、その事から目をそむけて生きていることは、蟬と同じで今のいのちを見誤ってしまいますよ」とのお示しです。

「一度きりの人生だから…」生きていくいのちを大切に…」という言葉は私自身も何度も使っていました。それで間違いはないのかもしれないが、この言葉の裏返しは「死んだらおしまいだ」ではないでしょうか。いまのいのちを見つめていようつもりでいながら、いのちの始まりがだれもがもっている「誕生日」で、いのちの終りが、いのちの日「命日」である、と考えていると、いまのいのちのすがたがわかりません。

今のいのちを見誤らないために、前のいのち、明日のいのちを見通した方の言葉を聞かなければなりません。いのちを見通した方を「目覚めた方」という意味で仏陀と呼び、仏陀のお言葉はお経に説かれています。親鸞聖人はそのお経のおこころをお偈(うた)ご和讃にこのように示されます。

弥陀成仏のこのかたは
いまに十劫をへたまへり
法身の光輪きはもなく
世の盲冥をてらすなり

(註釈版聖典557頁)
私がいのちに目覚めるために、はるか昔から名乗りをあげてくださった方が阿弥陀さまです。阿弥陀さまのみひかりは、私のいのちのすがたをてらしてくださいます。私がどこから来て、どこへ向かって生きるのか、そして私のいのちのすがたをしめされます。

中川南組 蓮教寺

浄土真宗本願寺派布教使

高田 篤敬

千鳥ヶ淵戦没者法要に参拝して

今回初めて参加させていただきました。今年が戦後70年の節目ということもあり席のない方もあるほど多くの参拝がありました。これまでの70年は直接戦争体験をされ



た方々から戦争の悲惨さや、決して繰り返してはならないという決意をきくことができました。話でしか知らない私達の世代が次世代に伝えていくためにもこのような法要を御縁としてきちんと向き合い考えていくことがいかに大切かと考えさせられました。

岐厚組 丹宮 美根子

平成27年9月17日(木)〜18日(金)今回初めて仏教婦人会の一員として千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に参拝させて頂きました。1日目は築地本願寺参拝。本願寺第12代准如様が浅草に開創され2回の大火の後に現在の築地に建造されたとのお話で古代インド

式の建物でした。2日目は国会議事堂を見学。国会前の安保法案反対のデモ隊の人々を目にして私も心の中で反対とこぼしを上げていました。第35回目の法要は戦後70年目を迎える千鳥ヶ淵戦没者墓苑にご門主様ご親修のもと厳肅な気持ちで失われた尊い多くの命に平和への願いを込めて合掌致しました。

揖斐組 野村 邦子

今回私自身5回目の千鳥ヶ淵参拝に参加させてもらいました。

国会議事堂前では安保法案反対、戦争反対の声がおきていたその日普段は静かである公園にたくさんの人たちが戦没者を思い、手をあわせていました。

毎回読まれる「平和」についての作文、今年

は曾々父が戦争でなくなった中学生が僕は戦争には反対です、と思いをかたり、小学生の時両親と行った沖繩で同じ年頃の少女たち「ひめゆり学徒」の「生きたい、



生きていたい、生きたかった」の言葉が重く心に残ったと高校生は語りかけました。

二人は「平和の鐘」を静かに平和を願い鳴らし続けました。

私たちが参拝した日も小雨が降っていましたが、私の母が生前参拝した日も小雨が降っていたのか、こんな句を残していました。
戦火人の涙のしずくか

千鳥がふちの

杉の木立に秋雨しずか

岐阜別院 福島 静子

第25代 専如門主教区ご巡回 並びに直轄・直属寺院ご巡拝実施日決定



今般、第25代専如門主の伝灯報告法要にともなう記念行事として、「第25代 専如門主教区」ご巡回、並びに直轄・直属寺院ご巡拝」が実施されることとなりました。

つきましては、岐阜教区につきましては2016(平成28)年5月27日(金)午後と決定いたしました。

詳細につきましては決定次第各御寺院へお知らせいたしますので、皆様お誘い合わせのうえご参拝ください。

お知らせ

岐阜別院『報恩講法要』のご案内

十二月四日(金)

日中法要 午前十時より
速夜法要 午後一時より

十二月五日(土)

日中法要 午前十時より
速夜法要 午後一時より
初夜法要 午後七時より

十二月六日(日)

日中法要 午前十時より

講師 本願寺司教・行信教校教師

本願寺派布教使

高田 慈昭 師

報恩講『聞法のつどい』

十二月六日(日)

報恩講日中法要引き続き

講師 岐稲組専琳寺

本願寺派布教使

横山 大悟 師

・東陽組溝徳寺

本願寺派布教使

日野 龍仁 師

・本年度報恩講法要講師

高田 慈昭 師

皆様お誘い合わせのうえお参りください

編集後記

現代仏教で説く「因縁果」の考え方は、「因果応報」ではなく「因縁生起」であります。物事が生じたり起きたりするのには、「因」だけでなく、より重要なこととして「縁」を説き、二つが整ったとき「果」が結ばれます。この「因縁生起」を略して「縁起」と呼び、仏教の中心思想となっております。これは直接原因である「因」よりも間接原因(条件)である「縁」を重視しているからであります。私は、兼職から僧侶専業になって三年目であります。歳は重ねていきますが法務経験は浅く、また宗門の大学を卒業していないこともあって、宗教界での横の繋がりが弱いと自覚しています。「念仏の声」の編集では、執筆者の選定など多くのことを他の委員に委ねています。

読者の皆さん。「仏縁」に限らず「縁」は人生を豊かにしてくれます。あらゆる機会を通して「縁」を広めていきましょう。

祝 第二十五代専如門主

伝灯奉告法要

近畿日本ツーリスト株式会社
株式会社JTB
株式会社日本旅行
東武トップツアーズ株式会社
名鉄観光サービス株式会社
(本山旅行指定業者)